

# 千利狸の呟き

アナログ狸は、腹太鼓ならぬ、ヴァイオリンなどを嗜む。といっても子狸に便乗して、始めた50の手習いなので、ちっともうまくなならない。家族3人で始めたはずが、いまだに習っているのはアナログ狸だけになってしまった。下手の横好き、または、ミイラ取りがミイラになった、と自虐するが、10年も習っているのに、この程度では箸にも棒にも掛からぬ。

だいたい、アナログ狸は楽譜が読めない。ビートルズのポール・マッカートニーが昔、楽譜が読めないと言っていたが、たぶんそれと同じ状態だと思う。アナログ狸も若かりし頃はギターに、はまっていた。これがいけない。ギターの演奏は、コードと、ギター譜という、指の押さえ方が書いてあるやつがわかれば、ドレミなんて、わからなくてもできてしまう。だから楽譜をみても、ドレミに即座に変換できない。ヴァイオリンも同じで、ドレミに変換できないものだから、楽譜にポジションと指番号が書かれた、音楽というよりは数字の羅列を見ながら、演奏している。これでは、素晴らしい演奏などできるわけがない。アナログ狸、改め、デジタル狸と、改名すべきだろうか？

数字の羅列で正確に演奏できるならば良いが、アナログ狸は脳がアナログ脳なので、そんなことができるはずがない。とりあえず、自分の車のカーステレオで他人の演奏を聴きまくり、それを手探りで模倣しようとするのだが、最初は、数字の羅列と聞いた音楽が一致せず、訳の分からないまま、練習している。何度も悪戦苦闘した挙句、少しずつ数字の羅列が、音楽に近くなっていき、ああ、実はこういう曲だったのか?! と、おぼろげながら理解できるようになる。アナログ狸にとっての演奏は、悟りの得られない修行僧の苦行のようなものだ。それでもボケ防止だと割り切っている。

アナログ狸は、アナログの権化である、SPレコード、LPレコード、オープン・リール・テープを好むが、CD、レーザーディスク、DVD、ブルーレイなども所有している。しかし、最近は、いわゆるネットワーク・オーディオというやつで、ハードディスクに入れた、ハイレゾやらを聞くことが多い。だが、ハイレゾの音源が、アナログの権化を、わざわざDSDに変換したやつというところが、アナログ狸らしい。本来は、アナログらしい儀式をして、円盤やテープを回すべきところを、リモコンで簡単操作で聞いてしまうのは、邪道かもしれない。まあ、ハードディスクに曲をたくさん入れすぎて、聞きたい曲が見つからず、時々アナ

～ まずは音楽、お次は… ～

## アナログ狸

ログの儀式に戻るので、良しとしておこう。

アナログ狸は、バイロイト詣でを夢見るワグネリアンの端くれである。ワグネリアンというのは、指輪と称する、超長大な曲を苦痛なく聴けることを目指す、マゾヒスト集団だ。その修行のために、モーツァルト、リヒャルト・シュトラウス、ヴェルディなどの洗礼も欠かせない。最近、CDのハコモノが低価格で出回り、過去の大指揮者の全録音制覇に血道をあげている。クナ、フルヴェン、ワルター、E.クライバー、C.クラウスから、クリュイタンス、カイルベルトにまで至っている。できれば、直に拝んだことのある、カルロス・クライバーの全録音も欲しいものだ。修業時代の録音などが発掘されれば、聞いたことのない世界がひろがりそうだ。

CDも何枚もいっぺんにかけるのは面倒なので、圧縮したうえ、ハード・ディスクにおち込んでいる。デジタルで圧縮したものはデジタルで戻してやれば、十分だろう。デジタルには夢を見ない、アナログ狸であった。

こうして、ハード・ディスクは数を増やし、検索は複雑怪奇となり、困難を極める。結局はリモコンの便利さを離れ、またアナログの儀式に戻らないといけな

